

# JACS

## NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニュースレター

第11巻第2号

発行日● 2003年5月20日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

### 第26回消費者行動研究コンファレンスの案内

春の消費者行動研究コンファレンスの開催日程が決定しましたので、ご案内致します。

第1日目に研究報告と懇親会、第2日目に研究報告と統一論題でのシンポジウムを予定しています。

**開催日程決まる！**

6月6日(金)・7日(土)

大阪樟蔭女子大学

(東大阪市・小阪キャンパス)

### 統一論題 環境問題と消費者行動

日時: 2003年6月6日(金)～7日(土) 会場: 大阪樟蔭女子大学・小阪キャンパス  
[6日(金)] [7日(土)]

10:00 -	受付開始	10:00 - 11:30	統一論題研究報告
10:30 - 12:30	自由論題研究報告	13:00 - 15:00	シンポジウム
14:00 - 16:00	統一論題研究報告		
16:20 - 17:00	会長講演		
17:00 - 18:00	会員総会		
18:00 - 20:00	懇親会		

費用 : 参加費 3,500 円(会員外は 5,000 円) 懇親会費 6,500 円

申込み: 会員の方は別途お送りする返信用葉書かファックス用紙、または E メール  
(jacs@jacs.gr.jp)にてお申し込みください。

(会員以外で参加をご希望の方は、最終頁の申込書に氏名・連絡先等を明記の上、事務局宛に郵便、FAX または E メールにてご連絡ください。)

## 2003 年度 JACS-SPSS論文プロポーザル賞の募集

日本消費者行動研究学会では、SPSS 社のご協力により、若手研究者の研究支援のために JACS-SPSS 論文プロポーザル賞を設けています。研究歴(大学院修士入学から)10年程度の若手会員の方から未発表論文の応募を致します。共同研究の場合には、主な研究者がこの条件に当てはまっていることが必要です。

受賞賞金の総額は50万円(最優秀賞1点30万円、優秀賞2点10万円)となっています。2003年春のコンファレンスにおける審査委員会での審議により選出され、選出された応募者は、2003年秋のコンファレンス初日に最終研究結果を報告します。その後、役員会で最優秀賞1点、優秀賞2点が選出されます。

JACS-SPSS 論文プレゼンテーション賞へ応募を希望される方は、下記の要領にしたがってEメールにてお申込み下さい。多くの若手会員の方から、応募をお待ちしています。

宛先 : jacs@jacs.gr.jp

応募要領: Eメールのタイトル「JACS-SPSS 論文プロポーザル賞応募希望」  
タイトル、氏名、所属  
概要(400字以内)

①研究の目的 ②研究の方法

締め切り: 2003年5月31日(土)

## ブックレビュー

### 『リフレクティブ・フロー』(栗木契、白桃書房)

魅力的な主題を取り扱った本である。何よりも消費者行動と企業のマーケティング行動の相互作用が直接に議論されている。特に、本書の前半(第2章～第4章)で展開される欲望・欲求の形成のメカニズムの整理は、ぜひとも一読をすすめたい。現在のわれわれの消費のありようは、通時的な視点からいえば歴史的経路依存性を見本市のようである。市場はまさに複雑適応系であり、いまこの瞬間を見るだけではわからないものがたくさんあるのだ。本書の前半で共通して取り上げられるのは潜在的な欲望・欲求の顕在化という古くからある問題だが、それを栗木氏は、消費者行動とマーケティングの相互作用のダイナミズムから切り開いてみせる。鮮やかな手腕であり、この際、文章が少々難解な点を我慢しても読み進む価値があるといえるだろう。

さて、本書の後半では、文体が若干変化するように感じられる。そこここにリフレクティブ・フロー

を主張する栗木氏の熱が伝わってくる。前半での慎重さとは違って、議論が大胆になる部分も少なくない。これは良し悪しである。細かい点を気にすれば、第5章でスキーマ、観点、フレームというほとんど一致する概念が並行して出てきて乱雑な印象を受けるとか、第6章で「ユーモアへの好感から、広告された商品への好感へという、転移のメカニズムをとらえる」といいながらも古典的条件づけへの言及がない点など、いろいろ問題視することもできよう。しかしこれも、筆の勢いがあったこと。

むしろ気にかかるのは、栗木氏の議論する可能性の確からしさである。あえて誤解を承知の上でいえば、本書に対して筆者は、経済学のゲーム理論の本に接したときと同じようなものを感じている。栗木氏の議論が規範的理論だからだろう。無限後退という言葉が何度も繰り返されるのがその典型といってよい。演繹的にはこうなるはずだというのが出発点であり、そこから、実際の現象への接近を目指して理論の改良をする。問題と解のセットは、演繹から導かれるのである。ここで記述的理論の立場からいえば、可能性と現実との間にはどうしても距離を感じてしまう。おそらくこの可能性の確からしさを明瞭にしていくには、これからのデータの蓄積が必要となるのではないか。

もちろん、規範的理論と記述的理論は相補的なものであり、いずれかを否定しようとしてもあまり生産的ではない。しかし、少なからずの違和感を互いに覚えるのは事実だろう。実はこの10年間、栗木氏と筆者はそうした違和感を抱えたつきあいをしてきた。ここにこそ、将来の研究のドライブが潜んでいるのならよいのだが。

(和歌山大学 佐々木壮太郎)

まず、佐々木氏という、優れた読み手に恵まれたことに感謝したい。本書を精緻に読み込み、整理や議論が行き届いていない点を的確に指摘していただいている。

さて、佐々木氏のコメントの中心は、本書の規範理論的性格の問題である。われわれは、ものごとを考えたり、論じたりするときに、経験に加えて、論理を用いることができる。だからこそ、直接に見たり、聞いたりすることのできない事象についても、考えたり、論じたりできるのである。あるいは、論理の補助線を引くことによって、現実のなかに埋もれていた関係がはっきりと見えるようになる。本書は、この思考の道具としての論理を扱うものである。規範的と言うと違和感があるが、記述理論ではないという点は、佐々木氏の指摘する通りである。

だが、それだけなのであれば、単なる位置づけの整理でしかない。「数理モデルではなく、生の現実に向き合え」といった類のナイーブな議論をする人がいる。佐々木氏が、同種の主張を、所を変えて行おうとしているとは思わない。しかし、残念ながら、それ以上の積極的な論点を見いだすこともできなかったのである。

(神戸大学 栗木契)

## 新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は、本頁下部の該当項目に☑をし、FAX ないしは郵便にて事務局宛にご返信頂くか、ご希望の項目を明記の上 e-mail にてご連絡ください。折り返し、会員募集案内(設立趣意書、学会会則、会員リスト、入会申込書、等)をお送りさせていただきます。

### 入会資格

- [学術会員]** 消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者(在籍経験者を含む)、およびそれに準ずる者(文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教暦を有する者、等)。但し、学術会員2名の推薦が必要。
- [賛助会員]** 本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

### 年会費

- [学術会員]** 5,000 円(但し、大学院生の場合は、2,000 円に減免)
- [賛助会員]** 個人会員 1 口 5,000 円 法人会員 1 口 50,000 円

---

会員募集案内(入会申込書)の送付を希望します。  
第 26 回コンファレンスへの参加を希望します。(懇親会:  参加  不参加)

お名前: \_\_\_\_\_ ご所属機関: \_\_\_\_\_

ご住所: \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

### ● J A C S 事務局のご案内 ●

(事務局) 〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155  
関西学院大学商学部 マーケティング研究室(山本昭二)  
TEL: 0798-54-6375 FAX: 0798-51-0903  
Email: sjyama@cvn.bai.ne.jp

(事務取扱) 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39  
恵比寿プライムスクエアタワー10F (SPSS 内)  
TEL: 03-5466-5520 FAX: 03-5466-5528  
Email: jacs@jacs.gr.jp

\* ご入会希望やコンファレンスへの参加お申込み、またお問合せ等は上記までお願い申し上げます。

---

---